

郡山市立美術館は、郡山市街から安達太良山までを一望できる、緑豊かな丘陵地にあります。この美術館は1992年11月の開館ですが、愛知県美術館も同年10月の開館で、ほとんど時を同じくして活動を始めました。建物は、季節によって豊かに変化する周囲の自然と調和し、日常から離れて美術鑑賞のひとときを過ごすには最適の場所です。

コレクションは、ターナーやバーン＝ジョーンズといったイギリス近代美術や明治以降の日本近代美術、郡山市ゆかりの美術などが中心になっています。特に、イギリス近代美術の体系的なコレクションは国内の美術館では他にほとんど例がなく、充実したコレクションとして高く評価されています。

→郡山市立美術館ウェブサイト



この郡山市立美術館で、現在「震災復興支援 愛知県美術館所蔵品展」が開催されています。

東日本大震災では、郡山市も建物の損壊などを中心に非常に大きな被害を受けました。美術館も施設面での被害などがありましたが、地域の人々に美術作品の鑑賞を通じて安らぎの場を提供しようと活動を続けてこられています。今回の展覧会は「震災復興支援」と銘打たれていますが、これは郡山市立美術館が震災後に開催した展覧会では初めてのことです。震災から二年半を経た今も、郡山市、そして福島県に住まう方々は、原発事故の影響などもあり将来への明るい希望が持てない状況に置かれています。

それゆえにこそ、美術館から復興というメッセージを発信していきたい、という美術館のスタッフの皆さんの篤い思いが込められています。



郡山市立美術館から、当館のコレクションで復興支援の展覧会を、というご依頼をいただいた折、私たちはできるだけその趣旨にかなう内容でお応えすることにしました。第一章「日本人と自然」は、古来日本人が自然を畏れ、慈しみ、敬いながら共生してきたことを、与謝蕪村や英一蝶らの江戸絵画から、小川芋銭や熊谷守一、東山魁夷といった近代以降の作品を通じて感じ取っていただけるように構成されています。第二章「そして未来へ」は、今回の震災で多くの尊い生命が失われ、慣れ親しんだ故郷を奪われた方々への鎮魂や祈り、思いを託すことができるような作品、クリムト《人生は戦いなり（黄金の

騎士) 》など、明日に向かって歩む力を得ていただけるような作品で構成されています。愛知県美術館のコレクションが、このようなかたちで郡山市の、そして福島県の方々にご覧いただけることを、心から嬉しく思っています。

(MM)